

都市再生整備計画事業 事後評価シート
吹田市南千里駅周辺地区

平成26年3月

大阪府吹田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	吹田市	地区名	南千里駅周辺地区			面積	410.2ha					
	平成21年度～25年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	1,795.5百万円	国費率	0.4							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
	基幹事業		道路(南千里駅高野線)、地域生活基盤施設、高質空間形成施設、高次都市施設											
	提案事業		地域創造支援事業(情報発信拠点施設、地域福祉保健拠点施設、地域交流拠点施設)											
			事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(南千里駅高野線)		歩道舗装を削除した		直接影響はなかった							
		提案事業	地域生活基盤施設(園路整備等)		野外ステージシェルターを削除した		直接影響はなかった							
新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(園路整備等)		園路整備を延長し(40mを380mに)、照明施設の整備を加えた		バリアフリー化の相乗効果となった								
	提案事業	高質空間形成施設(歩行者支援施設)		道路(南千里駅高野線)歩道舗装、LED照明施設、案内サイン、時計台を追加した		南千里駅周辺地区の快適度向上及び環境負荷軽減効果につながった								
交付期間の変更	当初変更	平成21年度～25年度	なし		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	交通利便性の向上	m	330	平成20年度	200	平成25年度	モニタリング	評価値	180	○	あり なし	交通広場のロータリー化により、通過交通がなくなり南千里駅高野線への負荷が低下した。それにより、スムーズに利用できる交差点となった。	なし
	指標2	アメニティの向上	%	21	平成20年度	31	平成25年度			64	○	あり なし	駅周辺利用者の快適性に対する満足度は目標を大きく上回り64%と高かった。	なし
	指標3	(仮称)南千里駅前公共公益施設の利用者数(その1)	人/年	130,000	平成18年度	143,000	平成25年度			126,000	×	あり なし	○ ○	従前施設利用者数130,000人に対し、従後の利用者数は126,000人であった。しかし従前施設には従後施設にない児童向けプラネタリウムがあり、単純比較ができない。
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	(仮称)南千里駅前公共公益施設利用者数(その2)	人/年	113,000	平成18年度	124,300	平成25年度			126,000			従前値を児童向け利用者数を除いた数値とし、目標値を同割増とした。評価値は目標値を越え、効果の発現がうかがえた。	なし
	その他の数値指標2													
4)定性的な効果発現状況	<p>○千里ニュータウンプラザの整備に伴い、プラネタリウムは廃止したが花とみどりの情報センター、千里ニュータウン情報館などの新たな機能を加え、図書館、地区公民館そして千里出張所の複合施設とした。1年間の利用者数は約573,000人であった。平成18年度の図書館貸出冊数は310,333冊、平成22年度は397,927冊であったが、平成24年9月から平成25年8月までの1年間の貸出冊数は約489,000冊と大幅な増加となっている。市民ニーズにあわせて市民サービス機能の複合化を図ったことが、千里図書館の大幅な利用増に代表されるように市民サービスの向上につながっていることがうかがえる。</p> <p>○地下機械式自転車駐輪場の整備効果については定量的評価を行うことができないが、整備後の整然とした歩道景観をみるとその整備効果の大きさがうかがえる。地下機械式自転車駐輪場は関西地区では初めてであり、マスコミからの取材も多く、注目を集めている。</p>													
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況										今後の対応方針等	
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
	住民参加プロセス	○「千里ニュータウンの再生を考える100人委員会」(H13)、H17「南千里駅周辺地区まちづくり懇談会」を開催 ○H18「南千里駅周辺地区まちづくり懇談会 整備計画まとめ」を市長に提出	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										市民参加型文化活動等の伝統を持つ地区であり、今後とも市民公募方式による市民参加体制を維持していく。	
	持続的なまちづくり体制の構築	○ボランティアスタッフによる千里ニュータウン情報館の企画等	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										多様な主体の交流や連携により千里ニュータウンのまちづくりを市民参加で行っており、今後とも維持していく。	

様式2-2 地区の概要

南千里駅周辺地区(大阪府吹田市)まちづくり交付金の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標「魅力あふれるにぎわいのあるまち」の再整備 【目標1】 交通利便性の向上: 交通広場のロータリー化による交通環境の改善や、駅やバスターミナルへの歩行者動線のバリアフリー化、アーケード化等により交通結節点としての機能の充実を図る。 【目標2】 アメニティの向上: 千里ニュータウン南地区の拠点としてふさわしい憩いと潤いのある空間を創出するため、駅前広場内に緑化施設等の整備や千里南公園の再整備を行い、まちの魅力の向上を図る。 【目標3】 地域コミュニティの形成: 千里ニュータウンも開発後、約40年が経過し、住民意識が変化の中で、若者から高齢者まで多様な世代が協働交流し活気あるまちづくりを一層すすめるための場所や機会の提供、市民相互の交流の向上を図る。	交通利便性の向上	m	330	平成20年度	200	平成25年度	180	平成25年度
	アメニティの向上	%	21	平成20年度	31	平成25年度	64	平成25年度
	(仮称)南千里駅前公共公益施設の利用者数	人/年	130000	平成18年度	143000	平成25年度	126000	平成25年度
まちの課題の変化	まちの課題として①公共施設の更新(老朽化とバリアフリー不足)②交通広場の再生(府道への通り抜け等)③連絡デッキの更新(耐震性対応不可とバリアフリー対応)④公共広場の整備(未整備)があげられている。①については千里ニュータウンプラザの整備、歩行者デッキの更新、EV設置等が取り組まれた。②については交通広場のロータリー化に変え地下機械式自転車駐輪場を整備した。③については連絡デッキの更新とシェルター整備、④については第2期計画として取り組む予定である。							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	定量的、定性的にも高い評価を得たが、歩行者デッキ階下の1階部分や南側バス停へのアクセスやバス待合所等に課題が残る。都市再生整備事業(南千里駅周辺地区)第2期計画として公共広場の整備が予定されており、あわせて一体的に整備見直しが望まれる。							